

<関東部会の皆様>

秋のさわやかな日々となりました。

10月例会は、J O C Sの派遣ワーカーとして14年間ネパールで医療奉仕活動に携わられた宮崎伸子さんから、お話を伺いました。

宮崎さんは、ワーカー終了後も、ネパールの人々と「共に生きる」ために宮崎さんの働きを支えてきた方達と共に、1996年3月に『ネパールプレーム基金』を設立されました。

<http://www.tokyokita.net/feature/nepal.html>

この活動は20年近くに渡りネパールのインド国境のティカプールに住むタルー族、とソナハ族の子供達の学校教育の為に支援を行ってきました。今回はその経過、そして現在の状況についてお話しくださいました。子供達への教育こそネパールの将来を支える基です。その為に長く支え続けておられる宮崎さんの働きに心うたれました。

今もなおネパールの子供たちの為に祈りをもってサポートを続けておられる宮崎伸子さんの活動を支援して下さる方は是非、『ネパールプレーム基金』にアクセス下さい。

宮崎さん本当に有難うございました。

● 11月例会のご案内です。

11月5日（土）：16時～17時30分（後、JCMA 常任委員会）

11月は1週間早めの開催になります。ご注意下さい。

長濱晴子氏（聖ルカ卒、元厚生省健康政策局看護課看護婦係長
元清水嘉与子参議院議員政策担当秘書）

題：看護は私の生き方そのもの

～重症筋無力症 20余年 生まれ変わった私

聖 書：ガラテアの信徒への手紙 第2章19後半・20節

19節後半：私はキリストと共に十字架につけられています。

20節：生きているのは、もはやわたしではありません。

キリストがわたしの内に生きておられるのです。

わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を捧げられた神の子に対する信仰によるものです。

讃美歌：368番（勤労）

今回の講師、長濱晴子氏は、聖路加看護大学を卒業後、病院での臨床をスタートに、厚生省で行政に、国会議員秘書として立法に関わられました。

その後難病を発症するも、病気と正面から向き合い中国でのボランティアに身を投じ、家庭では義父母、実父母と4人の最期を見取りられました。

「父母からの最期の贈りもの」「看護は私の生き方そのもの」等のご著書を通し、その波乱万丈の人生を振り返りつつ、看護師であることの喜びとその責任・やりがいを噛みしめ後進に伝えておられます。

皆さまの参加を、特に若い学生さんの参加をお待ちしています。

(場 所)：日本キリスト教団 信濃町教会

(JR 総武線信濃町駅下車徒歩5分、外苑東通り四谷3丁目方向・慶應病院煉瓦館向い)

東京都新宿区信濃町30 TEL:03-3351-4805 <http://www.shinanomachi-c.jp/>

(JCMA関東部会長 石井光子)

今後の関東部会例会予定：詳細は間近に再度お知らせいたします。ご予定下さい。

12月10日（土）：クリスマス祝会：和 真衣香（かずまいか）氏
(信濃町教会にて16時より)
(唐津総会で素晴らしい証をして下さった方です)
医福誌2016年5・6月号（第68回総会特集号 p14参照）

2017年1月9日（月）第99回全国委員会（関東部会担当）・・

来年の全国委員会は関東部会が担当です。皆さまのご協力お願いいたします。

（緊急災害支援ボランティアの募集）

9月号医福誌で配布のありました緊急災害ボランティアの募集をネットからも行っています。
JCMAHP から応募ください。

「第16回 アジアカトリック医師会総会 in 京都」 のご案内

JCMAHP にも紹介があります。

（関東部会メール 連絡係り 原久子）